

[成果情報名]対馬のシカ生息地における天然更新を完了させるための期間

[要約]スダジイを主体とした広葉樹林の皆伐後、防鹿ネットを5成長期維持すればスダジイ・ヤマハゼ・コナラ他5種による更新の可能性が高くなる。

[キーワード]シカ、広葉樹、萌芽、防鹿ネット、ディアライン

[担当]長崎県農林技術開発センター・森林研究部門

[連絡先]（代表）0957-26-3330

[区分]林業

[分類]行政

[作成年度]2022年度

[背景・ねらい]

対馬では、シイタケ原木や製紙用チップを生産するため広葉樹の伐採が行われている。広葉樹伐採跡は、萌芽更新が一般的だが、近年ニホンジカ（以下、シカ）による食害によって更新が困難な伐採跡地が発生している。食害を防ぐため防鹿ネットを設置することがあるが、防鹿ネットの維持管理期間は明確に決まっていない。そこで、防鹿ネット内の萌芽枝がシカの採食高を超える成長期数を調査し、防鹿ネットの適切な維持管理期間を明らかにするための基礎資料を収集する。

[成果の内容・特徴]

1. スダジイの萌芽枝 213本のうち、198本が5成長期後ディアラインを超える（表1）。
2. スダジイを主体とした広葉樹林の皆伐後、防鹿ネットで囲った区域は、スダジイ・ヤマハゼ・コナラ他9種の萌芽がみられる（表1、写真1）。
3. スダジイ・ヤマハゼ・コナラ他5種は、5成長期後の萌芽枝の平均樹高がディアライン以上であり、萌芽した樹種数の67%である（表1）。
4. スダジイ・ヤマハゼ・コナラ他5種において萌芽枝が5成長期後にディアラインを超えた個体数は223個体であり、全個体の84%である（表1）。
5. 防鹿ネットを5成長期維持すればスダジイ・ヤマハゼ・コナラ他5種による更新の可能性が高くなる（表1、写真2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 長崎県天然更新完了基準に活用する。
2. ディアラインはシカが採食できる高さ2mである。
3. 5成長期後も萌芽枝がディアラインを越えない樹種があり、継続調査が必要である。
4. ネット撤去後（破損後）の食害試験を今後行う必要がある。

<試験区の概要>

1. 試験地は対馬市豊玉町貝口、2018年の春に広葉樹を皆伐した場所である。
2. 豊玉町貝口のシカの生息密度は75.5頭/km²（2019年調査、山村対策室）と推定されている（表2）。
3. ネットは25m×25mの方形に2018年に4カ所設置した。
4. 調査は2022年10月26、27、28日に4カ所のネット内（計2500m²）で実施した。

[具体的データ]

表 1 5 成長期後の広葉樹皆伐跡地の萌芽状況

樹種	個体数	樹高がディアラインを超えた個体数	平均樹高 (cm)
エゴノキ	1	1	449
コナラ	7	7	379
クスノキ	1	1	362
ヤマハゼ	11	10	336
スタジイ	213	198	331
ネズミモチ	1	1	265
タブノキ	4	4	227
ヤマザクラ	2	1	225
ヒサカキ	1		145
ヤブツバキ	22	1	106
クロキ	2		94
マテバシイ	1		87
計	266	224	

注 1) 点線はディアライン



写真 1 防鹿ネット内萌芽状況



写真 2 防鹿ネット内外繁茂状況

注 1) 写真手前は防鹿ネット外

注 2) 写真奥側は防鹿ネット内

[その他]

研究課題名：獣害を考慮した更新技術の実証

予算区分： 県単、国庫

研究期間：2017 年度～2022 年度

研究担当者：川本啓史郎、溝口哲生、森口直哉